

学校 教育 目標	創りだせTomorrow わたしはChallenger ～自らの思いや願いの実現をめざして、ねばり強く学び続け、心豊かに明日を創りだす子～				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び続け、自分の考えを深める子を育てます。(知) ○ 自然や人との豊かなかかわりの中で、お互いのよさや違いを認め合える子を育てます。(徳) ○ 健やかな心と体をつくり、自分や人の生命を大切にすることを育てます。(体) ○ “まち”のひと・こと・ものを大切に、共に生きる子を育てます。(公) ○ 社会の変化に関心を持ち、柔軟に対応できる子を育てます。(開) 				
学校 概要	創立 147 周年	学校長 中山 光恵	副校長 安田 芳美	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 2
児童生徒数: 412 人	主な関係校: 金沢中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	金沢中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p><他者を思いやる力></p> <p><協働して課題解決する力></p>	<p>金沢中学校 文庫小学校 八景小学校 釜利谷東小学校</p>	<p>他人を思いやり、課題達成のために協力する子ども</p> <p>・社会性や協調性、課題解決能力やコミュニケーション能力を高めるために、地域や社会、自然と触れ合う豊かな体験を通じて、様々な人々と関わりながら、探究的な学習を行う。</p> <p>・社会で働いている人々、社会で行われていることの本質に触れたり、働くことの意義や喜びを感じたりできるように職場体験や職場見学を行う。</p>

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりをし、児童が主体的に課題解決する力を育みます。 ・考えを伝え合う機会を大切に、他者を理解する態度、自己を理解する態度を身に付けられるようにします。 ・まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「主体的に学びをつくる子ども」を目指し、生活科・金沢タイムを中心に授業研究を行う。「わかった」「できた」の経験を増やすため、めあてと振り返りを意識した授業改善に取り組む。②幼保小接続について研究し、学びと育ちの連続性を意識したカリキュラムを作成する。
担当 研究・研修部	
豊かな心	①なかよし活動(たてわり活動)を通して、6年生のリーダーとしての自覚を高め、異学年同士のつながりを深める。②児童会テーマ「笑顔」に、全職員・全校児童で取り組む。③生活科・金沢タイムを中心に、まちの「ひと・もの・こと」にふれ、大切にすることを育む。
担当 支援・指導部	
健やかな体	①体育科の授業に加え、朝の自由遊びや体育集会、スポーツフェスタ、マラソンフェスタ、スポーツクラブなど様々な機会に運動の楽しさを味わい、自ら体力を高めていこうとする意欲を引き出す。②基本的な生活習慣の確立を目指し、栄養教諭や養護教諭と連携し食育や健康教育を充実させる。
担当 研究・研修部	
特別支援教育	①児童支援専任教諭を軸に、全職員で特別な支援を必要とする児童について共有し、児童のニーズに沿った指導を行う。②ユニバーサルデザインについて全職員で共通理解を図り、取り組む。③個別学習(のびのび教室)では、担任と相談しながら学習を進め、保護者とも連携を図る。
担当 支援・指導部	
児童指導	①児童用の「学校のきまり」と教師用の「金小スタンダード」を全職員で共通理解し、児童支援専任教諭を中心に全職員が同じ指導をする。②職員会議や打ち合わせ、学年研の折に児童理解のための情報共有を行い、児童の状況について共通理解を図る。
担当 支援・指導部	
地域連携	①学校・地域コーディネーターを中心に、積極的に保護者や地域の力を導入し、有意義な学習活動を行う。②5つのフェスタなどで地域と連携し、児童が地域とのかかわりを意識できるようにする。
担当 研究・研修部	
特色ある教育	①地域の材(自然・人材)を活用し、地域のよさを体感することを大切にしながら、「海の環境教育」を継続及び発展させる。
担当 研究・研修部	
いじめへの対応	①いじめをしない・させない・見逃さないよう、児童理解に努め、些細なことでも報告・連絡・相談する。②毎月「学校いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめに対して積極的かつ組織的に取り組む。③人権教育、道徳教育、情報モラル教育を丁寧に行っていく。
担当 支援・指導部	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。多くの職員の話の聞いたり、実践することで、教師力の向上を図る。②グループウェア等を活用して、情報の共有化、事務の簡便化、効率化を図るとともに、職員室業務アシスタントを活用し、業務の軽減を図る。
担当 研究・研修部	